

- ⑦ 市町村における社会教育計画の設定
- ⑧ 社会教育の地域に果たす役割と今後の推進対策
- ⑨ 市町村における社会教育の現状と問題点
- ⑩ 視聴覚教材による学習展開

3 福島県市町村社会教育委員研究集会

(1) 趣 旨

市町村社会教育委員の役割及び活動上の諸問題について研究協議を行い、市町村の社会教育の振興充実に資する。

(2) 主 催

福島県教育委員会、いわき市教育委員会
 福島県市町村社会教育委員連絡協議会

(3) 期日、会場、参加者数

- ① 期 日 昭和59年10月8日(月)～9日(火)
- ② 会 場 いわき市文化センター
- ③ 参 加 者 250名

(4) 参加対象者

市町村社会教育委員、市町村教育委員会事務局職員
 学校教育関係者及び社会教育関係団体関係者

(5) 講師、助言者

① 講 師

国立社会教育研修所長 塩 津 有 彦

② パネラー及び司会者

いわき市社会教育委員議長 荒 井 光 男
 いわき市教育委員会教育参事 新 妻 忠 男
 いわき市立小名浜公民館長 斎 藤 守 滋
 前福島県立福島高等学校長 飯 島 護
 福島県教育庁社会教育課主任社教主事 丹 治 成 男

(6) 内 容

① 研究主題

「社会教育の拡充を図るために、学校教育と社会教育はどのように連携したらよいか」

② 講 演

「いま社会教育に求められるものは」

③ シンポジウムフォーラム

「学社連携の具現化を図るための社会教育委員の果たすべき役割は何かを考える」

4 生涯学習促進研究協議会・研究大会

(1) 趣 旨

生涯学習を促進するために青年、成人、婦人、高齢者各層の学習者に対する望ましい対応について研究協議を行い、体系的学習の促進を図るとともに、生涯教育体制の確立に資する。

(2) 期日、会場、参加者数

	期 日	方 部	会 場	参加者数
地区協議会	8月30日	会津方部	喜多方プラザ	148名
	9月20日	中通り方部	鏡石町公民館	212名
	11月6日	浜通り方部	いわき市立小名浜公民館	182名
県大会	11月22日	中通り地区	西郷村文化センター	310名

(3) 講 師

福島県立会津短期大学助教授 佐々木 篤 信
 元白河市中央公民館長 根 本 芳之助
 元いわき市社会教育指導員 大 谷 健
 岩手県金ヶ崎生涯教育センター所長補佐 千 葉 正 幸

(4) 助 言 者

会場地教育委員会事務局職員、県教育庁社会教育課員、教育事務所員、社会教育関係団体代表者、小・中・高校教育関係者

(5) 参 加 者

市町村長、同議会議員、同教育委員、社会教育委員、社会教育関係職員、社会教育関係団体代表者、小・中・高等学校教育関係者

(6) 研究内容

① 研究主題

「生涯学習を促進するために、市町村における行政機関並びに地域住民はどのように対応すればよいか」

② 部会テーマ

ア 行政部会

「生涯学習を促進するために、市町村における生涯教育体制づくりをどのように進めたらよいか」

イ 学習者部会

「生涯学習を計画的に行うために、学習の場と機会をどのように活用すればよいか」

5 社会教育指導員の設置

(1) 趣 旨

市町村教育委員会の委嘱を受けて、社会教育の特定分野の直接指導、学習相談、社会教育関係団体の育成等に当たる社会教育指導員を設置するための経費の一部を補助し、市町村における社会教育指導者層の充実に資する。

(2) 補助金の額

補助対象経費の3分の2以内（1人につき月額36,000円を限度とする）

(3) 設 置 数 88名

教 務 所	県 北	県 中	県 南	会 津	南 会 津	相 双	い わ き
人 数	18	20	11	16	7	13	3

6 社会教育主事の市町村派遣

(1) 趣 旨

県が市町村社会教育行政を補完協力するため、市町村教育委員会の求めに応じて、社会教育主事を派遣し、市町村の社会教育の振興を図る。

(2) 派遣先市町村及び社会教育主事

管 内	市 町 村 名	氏 名	派 遣 年 度
県 北	国 見 町	渡 辺 正 誼	57年度
〃	梁 川 町	川 村 俱 義	58年度
〃	月 館 町	鈴 木 敏 夫	58年度
〃	川 俣 町	佐 藤 悦 雄	58年度